

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873700268
法人名	医療法人青峰会
事業所名	グループホームかざぐるま
所在地	愛媛県西宇和郡伊方町大久 1 3 9 1 - 1
自己評価作成日	平成26年7月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>『かざぐるま』は目の前に宇和海が広がり、近隣には保育所・小学校があり裏には山、緑に囲まれて自然に恵まれた開放的な環境の中で家庭的な雰囲気と地域住民との交流の元で利用者の方々が穏やかに安心して日常生活を営む事が出来る様に支援しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>隣の保育所とは、雛祭りや七夕、クリスマス会等、お互いの行事に誘い合って交流されている。地元の小学校からは、授業の一環として児童の訪問があり、利用者とふれあい、絵や手紙をたくさんもらっている。併設デイサービス跡のスペースは、地域のいきいきサロンに提供しており、利用者も参加して地域の方達と交流されている。5月には一緒に大洲の菖蒲園を見に出かけられた。近所の商店に買い物に行ったり、盆踊りや公民館の祭り等、地域行事に参加することで、利用者のことを知ってくださっている方も多い。町内のクリーン運動の草引きに利用者と一緒に参加したり、事業所の庭木は地域の方が剪定してくださる等、地域とのつながりを大切にしたり取り組みが多くある。</p> <p>利用者が行方不明になったような場合には、地域の人達や消防団が探してくるようになっており、そのためにも利用者地域の方が顔見知りになれるよう、毎日の散歩や買い物に出かけておられる。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームかざぐるま

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

河野 修照

評価完了日

平成26年7月14日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 認知症であっても、1人ひとりが地域にとけ込んで当たり前で暮らせるよう謳った理念を掲げている。	
			(外部評価) 「認知症であっても、一人ひとりが地域の中であたりまえに暮らしながら人間の尊厳を大切に生きていく」という、開設時からの理念に基づき、管理者は職員に、「利用者は一人ひとり違うため対応も異なる」ことを意識して取り組めるよう話しておられる。事業所では、できることを行えるような支援や、個々の興味のあることを支援することが、尊厳を大切にすることにつながるという考えのもと、取り組みをすすめておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地元の保育所・小学校との交流が定期的であり毎月、生き生きサロン(社協主催の介護予防行事に地元の方が参加され)入居者様も一緒に参加しており、地域行事(クリーン運動・津波避難訓練等)参加しており、毎朝、買い物と一緒に行き地域との交流を図っている。	
			(外部評価) 隣の保育所とは、雛祭りや七夕、クリスマス会等、お互いの行事に誘い合って交流されている。地元の小学校からは、授業の一環として児童の訪問があり、利用者とおふれあい、絵や手紙をたくさんもらっている。併設デイサービス跡のスペースは、地域のいきいきサロンに提供しており、利用者も参加して地域の方達と交流されている。5月には一緒に大洲の菖蒲園を見に出かけられた。近所の商店に買い物に行ったり、盆踊りや公民館の祭り等、地域行事に参加することで、利用者のことを知ってくださっている方も多い。町内のクリーン運動の草引きに利用者と一緒に参加したり、事業所の庭木は地域の方が剪定してくださる等、地域とのつながりを大切にした取り組みが多くある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 学校の職場体験・運営推進会議時に認知症の理解・グループホームの役割などを説明し理解を深めて頂く様に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者様・グループホームの現状・サービス内容や活動・研修報告と一緒に講師を招いて救急時の対応や防災時の協力依頼・協力等話し合い、意見や感想等を取り入れて今後のサービス向上に繋げている。	
			(外部評価) 会議時に、併せて避難訓練を実施したり、救急法の講習会を開催したり、研修の報告等もされている。参加者から事業所に、「AED(自動体外式除細動器)を設置できないか」という意見があり、町にうかがったところ、近所のJAや小学校に設置されていることもあって、現在は実現は難しいようだ。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 入退居時や介護認定更新時の情報共有や感染症報告(事例なし)事故報告書の提出・介護保険事業計画等に策定検討委員会委員・介護認定審査員として参加して連携に努めている。	
			(外部評価) 町主催のケアマネジャー連絡会に出席して、町内介護事業所と情報交換されている。管理者は、介護保険策定委員や介護認定審査員を務めており、町と協働されている。毎月、介護相談員の訪問があり、感想を書面でもらい、事業所からも記入して町に提出するようになってきている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 法人研修・法外研修・自己勉強にて身体拘束への理解を高め、事例毎にミーティングを行い身体拘束にならない様に代替ケアを検討実施している。	
			(外部評価) 利用者が、「家に帰りたい」と言われた場合、職員が付き添い支援したり、ご家族に会いに来てもらえるよう連絡等されている。玄関や転倒の危険性が高い利用者のベッドの足元には、センサーを設置しており、メロディーを変えて区別している。利用者が行方不明になったような場合には、地域の人達や消防団が探してくれるようになっており、そのためにも利用者や地域の方が顔見知りになれるよう、毎日の散歩や買い物に出かけておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人研修・法外研修・自己勉強にて虐待防止への理解を高め、定期的にミーティングを行い、虐待の定義・規定に関して理解に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議時に行政からの説明を得たり、地域密着型協会主催の研修に参加し学ぶ機会を持って頂いている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居手続き時は、契約書や重要事項説明書等を十分に説明・理解を頂き、退居時は利用者様・御家族様が安心出来る様に配慮・理解・納得して頂ける様に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 御家族様の面会時・ケアプラン変更時・毎月の請求書に写真・コメントを添付してご家族様の意見・要望を聞き運営・最良のケアに繋げる様に努めており、緊急時・状態変化時はその都度、御連絡し情報交換と今後のケアに繋げている。 (外部評価) 毎年8月に家族会を計画して案内するが、参加者が少なく話し合うまでには至っていない。「計算ドリルをさせてほしい」「アロマがいいと聞いた」等の要望もあるが、「お任せします」というご家族が多いようだ。ご家族から「夜、職員一人では心配」という声があり、「法人に伝え、検討する」旨をお伝えした。事業所では、ご家族に「いい情報」を見つけて、気になること等と合わせて報告できるよう取り組まれている。ご家族に関わっていただく機会として、衣替えをお願いされている。	事業所では、家族会の日時の調整等して、できるだけ多くのご家族に参加してもらいたいと考えておられる。家族会が、利用者を支えるご家族と事業所の意見交換の場となり、ご家族同士が話し合う機会となるよう、取り組みに工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日の申し送り時・月1回のスタッフ会時・半期に1回の管理者面接時に意見・要望を聞く機会を設けより良い運営に反映される様に努めている。	
			(外部評価) 管理者の気付かないところを職員が提案したり、職員同士で日常的に提案し合って取り組まれている。デッキを修繕し余った木材でテーブルと椅子を作ったり、トイレ内で利用者から離れず介助できるように、排泄用品を常備しておくようにされた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 法人内で年に2回、人事考課表を取り入れ、努力や実績・勤務状況等を把握して評価を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加・法人からの補助金制度も有り、順に参加して頂き、分からない課題が有るとインターネット等で調べ資料を配布し理解に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 月に1回は、法人内の施設長が集まる会議が有り連絡・意見交換等を行い、お互いに高め合い運営推進会議に招いたり参加したりし、情報交換を行いサービス向上に取り組んでいる。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に面談し、アセスメントを十分に行い本人の思いやこれまでの生活歴や生活サイクルが無理なく実行出来る様・信頼関係を築ける様に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	入居前に面談し、アセスメントを十分に行い御家族様の思いや要望等を傾聴し、施設でのサービスを説明し理解の上、安心して信頼して頂ける様に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	施設での対応が困難な場合は、他施設等に相談・紹介する様に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	家事全般(料理・洗濯・掃除・畑仕事等)一緒に行う事により、昔の出来事や方法等を聞き教えて頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	来訪時や電話連絡時に近況を伝え、意見・要望を頂き、面会・行事参加依頼をお願いし、本人様との関係を続けられる様に機会を作る様に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	友人・知人の来訪時には、一緒に写真を撮ったり(自室に飾り)利用者様の暮らしぶりを話したり、自宅近くや自宅まで外出援助して大切な方、場所を忘れない様に努めている。	
			(外部評価)	毎月のいきいきサロンに参加して知人に会ったり、ゲートボールの練習を見に行ったりできるよう支援されている。毎日の散歩や買い物を通じて、地域や店の方とも顔馴染みになっている。職員が付き添いご自宅に戻って、必要な物を持ち帰ることもある。農業に携わっていた方が多く、事業所の畑仕事や草引きができるよう積極的に支援しており、芋掘りは保育園児と一緒に楽しむことが恒例となっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	利用者様の特徴・相性を把握して、なるべく一緒に仲良く過ごせる様に努めている。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	いつでも来訪して頂ける様に努め、施設外であっても積極的に挨拶・声かけを行い、連絡も取る様にしている。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	日々の関わりの中で意思疎通が困難な方にも、本人の視点に立って行動や表情等から思いや意向を把握する様に介護記録に記載しケアプランに反映出来る様に努めている。
			(外部評価)	
				入居後に知った情報等も蓄積して利用者個々の思いや意向、変化等が見えるようなアセスメントに工夫を重ね、計画作成や支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	入居前後に本人様・御家族様から生活歴等の聞き取りを行い、昔の話や若い頃の思い出等の会話の中から価値観等も把握する様にしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	利用者様1人ひとりの、日々の過ごし方や体調・行動・言動等を介護記録に記載し、変化を毎日の申し送り時に報告し全スタッフに周知する様に努めている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎月のスタッフ会で利用者様個々のADL確認と最良のケアを話し合い・御家族様から意見等を聞き取り・本人様の立場に立って意向を検討してケアプラン作成・モニタリングを行っている。</p> <p>(外部評価) 毎月のケース検討や3ヶ月毎のモニタリングを参考にして、計画を見直されている。管理者は、「利用者の思いとご家族の思いを把握した上で、計画を作成することが大切」と考えており、計画見直しの際には、新たに組みたい内容についてご家族に相談し、同意を得て計画を立てておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 食事・排泄等、暮らしの様子を介護記録に記載し変化や気を付ける事が有れば申し送りや業務日誌に記載して全スタッフが把握出来る様に努めている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人様・御家族様のニーズに応じて通院・外出・外泊支援に臨機応変に対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 近隣地域の保育所・小学校とは密な交流が定期的に有り協力して頂いている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 月1で協力医療機関の往診が有るが、本人様・御家族様の希望に応じてかかりつけ医や専門医への受診は御家族様のご協力を得てなるべく同行して頂く様をお願いしている。どうしても御家族様のご都合が合わない場合はスタッフが付き添い介助を行っている。	
			(外部評価) 協力医の定期往診以外は、ご家族が通院介助をされる事が多い。ご家族ができない場合は職員が付き添うが、法人全体で安全確保のため、「職員は運転しない」と決められており、タクシーを利用されている。入退院情報等は、医療機関とFAXでやりとりされている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 医療連携看護師が母体から週に1回は訪問し入居状態報告書を毎日、FAXして相談しながらアドバイスを貰い体調管理に努めている。状態変化時は24時間連絡が取れる体制がある。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 利用者情報を病院に提供し情報交換に努め、主治医・御家族様と相談しながら、対応できる状態で早期退院出来る様に支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居契約時、本人様・御家族様に医療連携指針に基づき、重度化し看取りの必要が生じた場合の対応等を説明している。	
			(外部評価) 地理的に救急時の医療機関が遠く、経済的な理由もあり、将来は介護施設に入所となるケースもある。状態が急変し、搬送後に死亡された利用者が1名おられるが、現在までに事業所で看取りを支援した経験はない。夜間急変した場合、近くに住む職員が駆けつけるようになっており、夜勤者が救急車に同乗し、管理者は搬送先に駆けつけることを申し合わせている。利用者のご家族が救急搬送を望まない場合には、希望に応じて支援したいと考えておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 法人内の看護技術勉強会に参加したり、消防署の救命講習を受けたり、急変時のマニュアルを準備している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、消防署の指導により、夜間・日勤想定 of 火事・年に1回は津波の避難訓練を実施し、地域の防災訓練にも参加し、災害時は地域住民・消防団員の協力依頼をお願いしている。	現在、車いす利用の方もおられることから、非常口からの避難については、夜勤帯の職員でも避難ができるよう、環境整備に取り組まれることが望まれる。
			(外部評価) 地震が発生した場合、伊方原発の被害状況は防災無線で知らなっている。津波到達予想時間は約40分であり、全員乗車できる自動車を玄関横に置いて、高台に避難できるよう手はずを整えておられる。地区の自主防災会にも加入し、今後連絡会に参加する予定となっている。火災を想定した場合、台所から反対の方向にある非常口は急勾配のため車いすでの避難は難しい状況である。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者を傷つけない様に排泄確認・声掛け・誘導を行う様に配慮している。全スタッフが個人情報保護法を理解し利用者のプライバシーに関わる事を外部に漏らさない様に徹底している。	
			(外部評価) 現在、女性の利用者は自立度が高いこともあり、家事等の作業に積極的にかかわる方が多く、トラブルになりがちではあるが、一人ひとりの状態や気性を考慮して、職員がお願いする形で調整されている。居間のテーブル席についても、気の合う方を近くにする等して配慮されている。地元の利用者ばかりのため方言で話しかけているが、管理者は、「ご家族に聴かれて恥ずかしくない声かけを心がける」よう指導されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食事の献立・おやつ・買出し時の食材選び・着る服を選んで着て頂ける様に出来るだけ入居者様に自己決定する場を作っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) スタッフ本意の優先とならない様に入居者様本位の生活サイクル・思いに合わせた支援を心掛けており、意思疎通が困難な入居者様については、思いを推し測りゆったりと穏やかに過ごせる様に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節毎の衣類を御家族と相談して入れ替えて頂いたり、購入依頼し用意して頂く事もある。2ヶ月に1度、地元より出張散髪来所され整髪に気をつけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 畑の世話を一緒にし収穫し(買出し)料理の準備から一緒に参加して利用者様の席の間に入り食事しながら団欒している。テーブル拭き・お膳拭き・下膳・食器洗い等も積極的に手伝って下さっている。	
			(外部評価) 野菜の収穫から食材の買い出し、調理から片付けまで、利用者一人ひとりの力を活かして食事作りを楽しめるよう支援されている。一日のうちおかず3品を外注しており、朝食に2品、夕食に1品利用して、昼食はすべて手作りされている。調査訪問時には、サラダに使用するジャガイモをていねいに剥いている利用者の様子が見られた。好き嫌いや食べられない物には代替品を用意し、刻みやトロミ等、個々の嚙む・飲み込みの状態に合わせて調理しており、又、できるだけ自分で食べられるよう、自助具や食器の工夫もされている。誕生日には、ケーキを買いに行き、ご本人のお好きなメニューでお祝いされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 献立は栄養士がチェックした物を使用し、食事や水分摂取量を個人記録に記入して、スタッフが情報共有しており、食事量・水分量低下時は、代替品や好みの飲み物を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きの声掛けを行い、必要に応じて介助を行い、週に1回は義歯洗浄剤を使用して口腔内の清潔保持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄確認し介護記録に記載して排泄パターンを把握して、声掛け、必要に応じてケアしている。	
			(外部評価) 以前は、トイレが車いす対応となっていなかったが、職員で話し合った結果、仕切りを外してカーテンを取り付け、手すりも付け換え、車いすを使用する重度の利用者も対応できるよう改修された。昼間は全員トイレで排泄できるよう支援されているが、夜間はポータブルトイレを利用する方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事には汁物・繊維質を含んだ献立を心掛け、午前・午後・食事時・就寝前の水分摂取を十分に行い、日中は食事前の体操・散歩・家事手伝い等で適度に身体を動かす事により自然排便出来る様に促している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴前に入浴声掛けを行い、バイタルチェックし気持ち良く入浴をして頂ける様に努め、体調不良や気分の乗らない等で入浴され無い時は、着替え・シャワー浴・清拭等で利用者様の無理の無い様に対応している。	
			(外部評価) 利用者は入浴に対して特別な要望は出されないが、「一人で入るのは嫌」と言う利用者には、仲良しの利用者と一緒に入れるように支援されている。職員が3名体制の17時15分頃までであれば、入浴の希望に応じられるようになっている。又、普通浴槽で対応できなくなれば、元デイサービスの浴室にて機械浴を利用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、入居者様の希望に応じて仮眠の時間と身体を動かしたり日光浴する時間を作り生活リズムを整え、安眠と休息が取れる様に支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者個々の薬用の引き出しを設置し、飲み間違いの無い様に2重チェック以上は義務づけており、薬情にて薬名・効能・副作用を各自で確認し周知している。内服前は名前・日付の確認を再度行い、利用者様に応じたケアを行っている。状態変化時はかかりつけ医・医療連携看護師に報告指示をもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 畑仕事・草引き・食事準備や料理手伝い・お膳拭きや台拭き・洗濯物干し・たたみ・掃除等を一緒に行ったり編み物をされたり、歌やカラオケが好きな方には希望に沿って支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の体調や天候・訴えに応じて、食材の買出しや散歩、ドライブに誘ったり、気分転換出来る様に外出支援を行っている。	
			(外部評価) 毎日のように、近所の商店へ買い物に行ったり、散歩に出かけたり、玄関やデッキから海を眺めて過ごされている。隣の保育所からは、園児達の声が聞こえ、園庭やプールで遊ぶ姿が見える。ドライブは、月1回程度計画して、花見、亀ヶ池温泉の足湯、菖蒲園、初詣等、みんなでお出かけられるよう支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者様のお金の管理が難しい方は、立て替え金と言う形で管理しており、入居者様で強い希望をされる方は御家族様よりお小遣い程度を本人が管理されている方もおられる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様の御希望時に御家族にその旨の説明・承諾を得て負担のならない程度で電話で話せる機会を作っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) カーテンを利用して光を適切に調整したり、居間や廊下には施設行事・生活で撮影した利用者様の写真を貼って、利用者様が自分の住んでいる家だと安心感が持てる様に工夫している。居間とキッチンが同じ空間にあるので食事を作っている様子やご飯の炊ける匂いが嗅げ生活観が感じられる工夫がされている。</p> <p>(外部評価) 事業所は、海と山に囲まれた自然豊かな場所にある。玄関には、風車等の木彫りのオブジェが数点、植木鉢と並べて置かれており、畑には、かぼちゃ、ねぎ、なす、いちぢく等が実っていた。居間からデッキに出られるようになっており、ひなたぼっこしながら海を眺めることもできる。半円型のテーブルを2台つなげて丸いテーブルを2か所にして、職員と利用者が囲み食事をされていた。廊下には夜間トイレに行く方のために、足元ランプが取り付けられている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 玄関前・テラスには、椅子があり入居者様の希望される時に1人で思いにふけたり、気の合う入居者様同士で寛げるスペースがある。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入居時に馴染みの物を持ち込んで貰って結構ですよと促しているが中々、持ち込まれる物が少ないので殺風景となりがちなので、御家族の写真や施設行事での写真・園児・小学生からのプレゼント等を飾って工夫している。</p> <p>(外部評価) 馴染みの物を持ち込まれている方は少ないが、中には位牌を持ってきたり、ご家族の写真をたくさん貼っている方もおられる。初詣で頂いた三嶋神社のお札を入口や室内に貼っておられた。退居した方のタンスを譲り受けて、使っている方もおられる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 居室入口には手作りの表札を利用者様に応じて分かり易い様に工夫している。トイレ・浴室の札位置を目線の位置に付けたり、大きくしたり、手摺り・トイレ内の改修を行い、車椅子・歩行器使用者でも安全に使用できる様に工夫している。</p>	